



ポルト

魔女の宅急便のモデルになった街。リスボンに比べて汚れた建物が多く、その湿っぽさが魅力。でもこの日は青空。



バイヨンヌ

フランスバスクの中核都市。チョコレート発祥の地であり、数億年前の深層海洋水で作る生ハムは格別に美味しい。



モンサント

コルクとオリーブの木の大地から盛り上がった丘の中腹にある村は、頂上から転がり落ちた巨石を利用して家を作る。



オビドス

リスボンの北西40km。城壁に囲まれた小さな村。白地に黄色の縁取りをした可愛い家並が素晴らしい。

# バスク&ポルトガル

スペイン&フランス

南雄三ツアー2017 10/16-23

## 跳ねる現代建築とアルヴァロ・シザの静謐

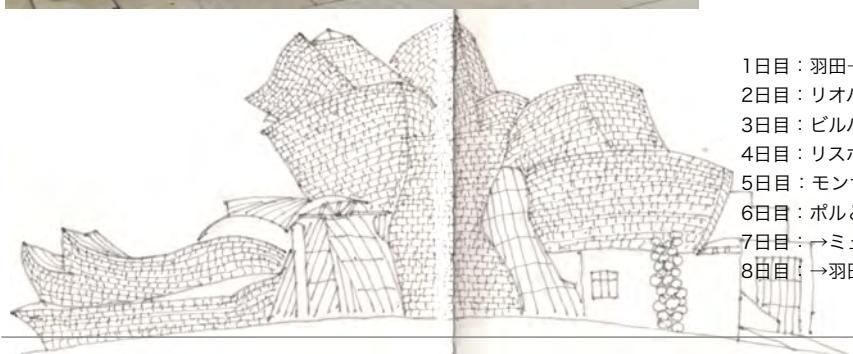


2017年の南雄三ツアーはバスクとポルトガル。カタロニア独立で大騒ぎのスペインだが、元々キナ臭いバスクはスペインに4領域、フランスに3領域あって「七つは一つ」がスローガン。両バスクの中心都市ビルバオとバイヨンヌを訪ねました。ビルバオはF.O.ゲーリーのグッゲンハイム他の現代建築、バイヨンヌは川辺の見事な住宅の群と生ハムとチョコレート。

連日夜中に宿に辿り着く…相変わらずの強行軍。でもリオハではカラトラバとザハ・ハディドのワイナリーを見た後で、F.O.ゲーリーのホテルで贅沢にランチ。参加者からはキツイという悲鳴もあれば、ユルイという意見もあって…。

目玉はアルバロ・シザ。誰もが名前くらいしか知らないポルトガルの巨匠。リスボンで万博ポルトガル館、アヴェイロ大学図書館、マルコ デ カナヴィーゼス教会…ここまでくれば誰もがシザに感服。確かにシザにはシザの絵がありました。

もう一つの目玉が巨石住居モンサント。ところがその日に限って雨降り。なんとか霧に収めたものの夢遊病者のように巨石住居をぬって頂上へ。その後のポルトはよく晴れ、雨期に入ったイベリア半島だけに結果オーライ。帰りは丁度日本を台風が直撃。幸いミュンヘンで3時間待ちはしたものの無事に台風が去ったばかりの羽田に着陸。



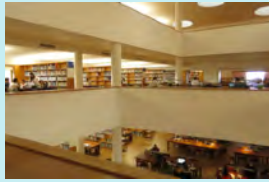
- 1日目：羽田→ビルバオ
- 2日目：リオハ、バイヨンヌ
- 3日目：ビルバオの現代建築
- 4日目：リスボン&オビドス
- 5日目：モンサント→ポルト
- 6日目：ポルトでシザの建築
- 7日目：→ミュンヘン経由で
- 8日目：→羽田



万博ポルトガル館  
1998 リスボン



アヴェイロ大学図書館  
1995 アヴェイロ



レサのスイミングプール  
1966 ポルト



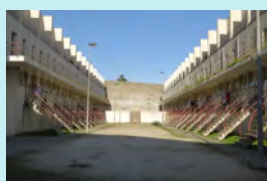
ボア・ノヴァ・レストラン  
1963 ポルト



マルコ・デ・カナヴェーゼス教会  
1989 ポルト



ボサの低所得者集合住宅  
1967 ポルト



現代建築巨匠設計のワイナリー三題



イシオス  
(カラトラバ)



ロベス デ エレディア  
(ザハ・ハディド)



マルケス デ リスカル  
(F.O.ゲ-リー)

スペインワインの最高峰といわれるリオハワインは建築でも世界級。カラトラバのイシオスだけ  
と違ってたら、ザハ・ハディドもあれば、ワイナリ経営のホテルをF.O.ゲ-リーが設計している。

カラトラバ三題



スピスリ橋 ポルト



オリエンテ駅 リスボン



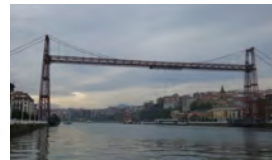
ビルバオ空港 ビルバオ

構造美で勝負するのがスペインの建築家：サンティアゴ・カラトラバ。時には恐竜の背骨の  
ように、時には樹木の枝のように、そして時には弓のように。建築は構造にあり…を実感。

鉄骨美三題



ドンルイ-世橋  
ポルト

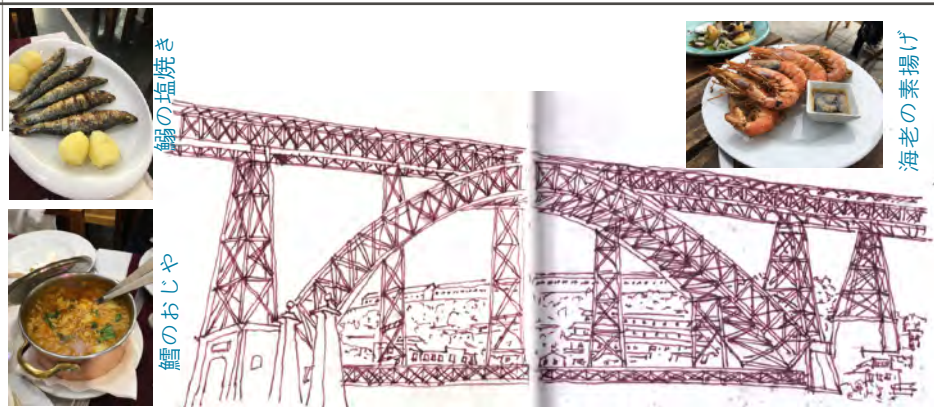


最古の運搬橋 ビスカヤ橋  
ビルバオ



サンタ ジェスタのエレベーター  
リスボン

フランスのエッフェルに学んだアルベルト パラシア設計のビスカヤ橋、ポルト パラシア設計  
のドンルイ橋、そしてリスボンにもポルトにもある地上エレベーターも素晴らしい鉄骨美をみ  
せる。公共建築は庶民のものであっても、こうして気高く美しくあるべきだと思いました。



アルヴァロ・シザ (1933~)

シザはポルト大学で建築を学び、独裁政権が終わった後に活発に作品を発表。彫刻家  
になりたかったという言葉そのままに、建築とはほんの少し違った形でシザを表現。  
現地に行く前には既に頭の中にある知識から一つのイメージをもち、現地で土地の力  
を読みながらエスキースして設計に進む。イデオロギーはイメージづくりの邪魔をする  
として排除するが、それでもアアルト、コルヴィジェらに影響されることを拒まない。  
リスボン万博ポルトガル館は、薄いコンクリートの巨大なスラブをワイヤーで吊ってみ  
せて驚かせるが、湾曲した屋根は綺麗で清々しく、自然体で嫌味がない。  
アヴェイロ大学の図書館は普通の四階建てなのに、上下階をつなぐ吹き抜けが絶妙で  
不思議な心地よさをつくる。圧巻はマルコ・デ・カナヴェーゼス教会で、外にはあっけ  
ない四角と曲面。なのに中に入ると空間に包まれてしまう。白い、何もない祭壇と壁。  
座れば見えず、立ち上がれば近所の建物が見える横長の窓。何故こんな曲面が描けるの  
かと思わせながらも、ここでも嫌味は全くない。シザは確実に居て、シザを見せてい  
るのに、どこかで私をみて面白がっているような…それがシザの建築だと知りました